

# 香取遺産

vol. 130

## 千葉・茨城両県の架け橋 「初代水郷大橋」



①初代の水郷大橋 ②親柱 ③銘板(「すみがうおほはし」・「昭和十一年三月成」)

国道51号線を北に向かって、利根川を渡るところ、本市と茨城県稲敷市の境に水郷大橋が架かっています。

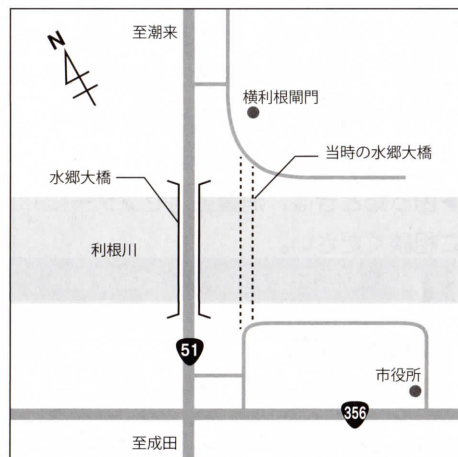
橋長は535・25m、幅員は25・5mの大橋で、昭和52年(1977)3月に竣工しました。当初は片側一車線の暫定開通でしたが、昭和58年の第二期工事により、現在のような4車線(片側2車線)となりました。中央の塔から斜めにケーブルを張って支える斜張橋の形式を持つ橋です。

実はこの水郷大橋は架け替えられた二代目の橋で、それ以前は、250mほど下流付近に初代の水郷大橋が架けられていました。

橋長は553m、有効幅員は6m、2本の主塔を持つトラス橋で、遠くに望む筑波山を思わせるような2つの山形が特徴的な橋です。昭和9年(1934)2月20日着工し、同11年(1936)3月3日に完成しました。

当時、陸上交通が普及しつつある中で、利根川には、我孫子市布佐の栄橋より下流に橋がなく、千葉と茨城の往来に支障を来していました。このため、旧佐原町を中心に、大正時代末頃から架橋の必要性が唱えられ、運動が行われました。

架橋にあたっては、初め千葉県では費用が掛



所在地  
香取市佐原口／  
茨城県稲敷市西代

かることで難色を示していました。そこで利根川の改修工事に携わっていた内務技官の中川吉造氏に相談し、工事費を見積もってもらったところ、県の見積もりより安く建設できることが分かり、事業化したようです。

実際の工事費は45万円、国庫補助15万円、千葉県15万円、茨城県10万円に加えて、佐原町では5万円を負担して建設されました。

利根川両岸の産業、経済、文化の交流に寄与した初代水郷大橋は、架け替えによりその役目を終えましたが、現在、その入口にあった親柱と橋の銘板が県立中央博物館大利根分館に保管されています。

生涯学習課 ☎(50)1224